



# 近畿自然歩道 29 熊野女夫坂をたどるみち

くまのめおとさの

**1** くまのめおとさの 熊瀬川王子跡

同王子の名前が確認できる史料は鎌倉時代の「熊野縁起」のみで、その詳細は現在も定かではない。一説によると、付近の小広王子と呼ばれ、旅人は山ヒルに同一であったともいわれる。

**2** わらじどうげ 草鞋峠

西に小広峠、東に岩神峠をひかえ、谷川を渡っては上り下りが険しく峠。この辺りにはかつて「夫婦坂」と呼ばれた。旅人は山ヒルに悩まされたという。

**3** なごうどちやあやと 仲人茶屋跡

この場所の前には女坂と男坂という険しい坂があり、それを総称して「夫婦坂」と呼んだ。「仲人」という茶屋の名称はそれに因んだものである。

**4** いわがみおうじあつ 岩神王子跡

平安時代の史料「中右記」にその存在が記されているものの、永らくその所在が不明であった。しかし、近年の調査により、この王子跡地が明らかになった。

**5** しそく おぎん地藏

湯湯川の男性を恋い慕って熊野に向かう途中、不運にも追い剥ぎに襲われて殺された京都の芸妓「おぎん」を哀れんで建てられた地藏。

**6** じゃがたじそく 蛇形地藏

付近で出土した海藻の化石が、蛇の頭のように見えたことから蛇形石と名づけられ、それを背にして地藏が祀られていたことから、この名が付けられた。

**7** ぬかわけちやく 湯川一族の墓

湯川一帯は、戦国時代に御坊平野を中心として紀南地域に勢力を誇った豪族、湯川氏の発祥の地だといわれている。

**8** ぬかわけちやく 湯川王子

九十九王子の中でも格式の高い准五体王子として祀られた。かつては付近に旅館もあり、旅人で賑わったという。鎌倉時代には後鳥羽上皇がここで徳泊している。

**9** みごしどうげ 三越峠

中世には関銭を徴収する関所があり、茶屋なども設けられていた。付近を流れる小さな川は本宮へと流れる音無川の源流である。

**10** てんません 伝馬船

昭和の中頃まで人々の往來を助ける渡し舟として利用されていたほか、鮎漁などにも活躍した。現在はその役目を終え、ここに展示されている。

**11** ふなだまじんじや 船玉神社

近くにある玉瀧という滝つぼで、蜘蛛がサカキの葉に乗っている様子を見て、神が船というものを思いついたという伝説から、船の神として祀られたという。

**12** いのほのおうじあつ 猪鼻王子跡

この辺りにある山がイノシシの鼻に似ていたことが名前の由来とされる。現在は、王子跡を後世に伝えるために紀州藩が建てた石碑だけが残されている。

**13** ぼっしんもんおうじ 発心門王子

明治の神社合祀後は王子跡を示す碑が残るのみであったが、近年社殿が建てられた。「発心門」とは悟りの心を開く聖域への入り口を意味する。県の指定史跡。



### 交通情報

▼起点：小広峠バス停 (田辺市中辺路町野中)  
 ・運行頻度：1日5本程度  
 ・明光バス(株)  
 TEL: 0739-42-3008  
 ・龍神自動車(株)  
 TEL: 0739-22-2100

▼終点：発心門王子バス停 (田辺市本宮町発心門)  
 ・運行頻度：1日3本程度  
 ・龍神自動車(株)  
 TEL: 0739-22-2100



### 注意事項

- ▼自然は私たちの貴重な財産です。木・草花・動物・岩石等の採取はせず、後世に残せるよう自然を大切にしましょう。
- ▼近畿自然歩道は地域の方の御協力により指定させて頂いているルートです。私有地へ立ち入る際は当該地で定められているルールに注意しましょう。
- ▼ゴミ・空き缶・ビン・ペットボトル類は必ず自分で持ち帰りましょう。
- ▼沿道の住人をはじめ他人の迷惑になるような行動は慎みましょう。
- ▼山岳地のコースなどでは、特に台風・大雨等の後は、落石・倒木・土砂崩れ等の恐れがあるため、十分注意してご利用下さい。
- ▼車道との兼用道もありますので、自動車等に注意してください。
- ▼交通の不便なところや足下の悪いところもあります。あらかじめ調べておきましょう。



### 凡例

- トイレ
- 水場
- 休憩所
- 売店
- 公共電話
- 駐車場
- バス停
- 駅

和歌山県 Wakayama Prefecture  
 環境生活総務課 自然環境室  
 〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1  
 TEL: 073-441-2779  
 FAX: 073-433-3590  
 メール: e0320004@pref.wakayama.lg.jp